



TITLE:

まえがき

AUTHOR(S):

高橋, 秀典

CITATION:

高橋, 秀典. まえがき. 技術室報告 2011, 12: iii-iii

ISSUE DATE:

2011-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/233436>

RIGHT:

まえがき

技術室長 高橋 秀典

まずは技術室報告第 12 号を執筆した方々、および編集にあたった方々の労に深く感謝いたします。

技術室は大きな節目を迎えようとしています。宮崎観測所の園田保美技術職員が今年度末に定年退職することになったため、来年度からは団塊の世代がいなくなるからです。

園田氏は 1974 年 11 月に、京都大学に採用され、長年にわたって地震や火山の観測に携わってこられました。今年 1 月には、長年にわたる地殻変動観測機器の製作・観測の継続のほか、19 世紀の水平振子傾斜計の復元に対する功績などが認められ、2010 年度地震火山災害予防賞を受賞されたばかりです。長年の研鑽で培ってきたノウハウを再雇用職員として生かしていただけないのは、技術室だけでなく防災研究所全体としても大きな痛手ではありますが、これまでの防災研究所に対する多大な貢献に敬意を払いつつ、今後のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

来年度は 1 名の新規採用者を迎えるとともに、今年度に見直しを進めた技術室規程に基づいて、技術室は新たな体制で心機一転、防災研究所の技術支援に当たることになります。再雇用の方々のこれまでの経験と技術を継承しながら、1 人ひとりの技術職員が地道にスキルを磨いて技術支援を実施し、支援先に高い満足度を感じてもらえることが、技術室としての最大の目標であると考えます。

潜在的な技術支援のニーズが多々あることを承知しながら、技術室の人員が縮小傾向にあり、十分に応えきれていないことに対して歯がゆい面もあります。縮小する人員体制のなかで、いかに多くの技術支援のニーズに応えていくかも技術室に課された宿題だと認識しています。当然のことながら、技術職員各人は従来の発想を転換して効率良く技術支援を進めていくことが求められるでしょう。

最後になりますが、多くの方々からの技術支援の依頼に応えられるように、技術室としても技術支援の質の向上に今後とも努めて参りたいと思います。今後とも所長をはじめとする教員の方々、事務部の方々にもご理解と一層のご支援をいただけると幸いです。よろしくお願いいたします。